

第118号

2020年1月31日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
振込口座 01930-2-20748  
編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# 子育てで

## 大切にしたいこと

大分大学 相澤 仁



### 心の絆を求めて

多くの人たちが、東日本大震災後、被災した人たちが互いに分けあい、助け合っている姿を見て、改めて「絆」の大切さを再確認しました。

その「絆」という字の語源は、犬や馬などの動物を繋ぎとめる綱のことをいうようですが、「絆」とは、半分の糸と書きまます。私は、心の絆というのは、半分の縦糸と半分の横糸で、きもの反物・布地を織るようなものであると考えています。子どもから出された半分の心の縦糸に、大人が忘れることなく半分の心の横糸を出して答える。繰り返して繰り返して紡がれていくことによって、心の反物・布地はきれいに織り上がり、ちよつとや、そつとでは破れない丈夫なしっかりとしたものに仕上がるように、心の絆は作られていくのだと考えています。

動物の赤ちゃんは他の動物に食べられてしまうので、すぐに動けるようになるの



ですが、人間の赤ちゃんは、人間らしく生きていくための心の絆をつくるために、生まれてもすぐに立つて動くこともできず、話すこともできないと言われています。心の絆ができないと自立したひとりの人間としての交流・コミュニケーションを取りながら人間社会で生きていけないからです。この心に絆ができあがるとそこが居場所になって、人は歩きはじめ、話し始めるのだと言われています。

したがって、児童福祉施設でも、いつも職員がそばにいて、子どもたちから出された心の縦糸に対して、すぐに職員が心の横糸を出して答え、心の交流を通して、心の傷を癒しつつ心の絆をつくり、子どもたちの居場所となるように努めております。こうした日々の生活によって心の絆は深いものになっていくのです。



### 八つの袋を大切に

（胃袋・寝袋・手袋・足袋・文袋・知恵袋・堪忍袋・お袋）

子どもたちが健やかに育つためには、八つの袋を大切にしたい支援を提供することだと考えています。まずは胃袋です。「人の心をつかむ道は胃袋から」と言われているように「胃袋」を満たすことが大切です。次に「寝袋」です。心地よく安らかに眠ることのできる寝具を提供することが大切です。よく食べ、よく眠りコンディションを整えた子どもには、よく遊び・よく働き・よく学んでもらうことが大切です。

したがって、よく遊び・よく働き・よく学ぶために必要な手袋、足袋、文袋を提供することが大切となります。手足を上手に使うための袋や書物が入っている袋を子どもに提供することによって、子どもは、それを使用しながら様々な経験や体験を通して、知恵袋や堪忍袋を作り始め、大きくしながら成長していくのです。

また、職員からのこのような袋のなげない継続的な提供を通して、もう一つ子ども

もの心の中に形成してもらいたい袋は「お袋」であります。言い換えれば、子ども心のの中に生きていくための糧となる母親のような大切な存在を取り込んで保有し定着してもらおうということです。すなわち大切な人を内在化・内面化することです。

このように、児童福祉施設では、「胃袋・寝袋・手袋・足袋・文袋」を満たしたり提供したりするあたりまえの生活を積み重ねることによって、子どもたちに知恵袋、堪忍袋、お袋といった社会生活をしていく上で大切な袋を頭や心の中に形成してもらおうように支援しているのです。

子どもたちが健幸な生活を営むことができるように、そう簡単には破れたりすることのないしなやかで丈夫な袋をつくってもらえるよう養育することが求められているのです。

大分大学福祉健康科学部の相澤仁教授の「子育てで大切にしたいこと」を116頁より33頁に渡り掲載させていただきました。今回で最終回となります。子育て世代に対するメッセージをいただき、感謝いたします。養育に携わる私たちも一層の使命のもとで、子どもとのしあわせのために取り組んでいく所存です。

### あげまして おめでとございます

いつも社会福祉法人栄光園に対する格別のご厚誼を賜り、心から感謝いたします。

本年も相変わらませずご指導・ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2020年正月

- |            |      |       |
|------------|------|-------|
| 社会福祉法人 栄光園 | 理事長  | 江口 敏一 |
| 児童養護施設 栄光園 | 施設長  | 岡田 豊弘 |
| 乳児院 栄光園    | 施設長  | 江口 敏一 |
| 青山保育所      | 所長   | 本庄 智宏 |
| 野口保育所      | 所長   | 工藤 直子 |
|            | 職員一同 |       |



# 児童養護施設

ウエストホーム

## 旅立ちに向けて

児童指導員 大野 将也

今年の3月にウエストホームから2名の児童が社会に旅立ちます。

2名とも就職先も決定しており、現在は新居探しや自動車免許の取得など卒園に向けての準備に追われていますが「ここにおるのもあと3か月か」と口にするのもしばしばで、卒園することを名残惜しく感じている様子が伺えます。

ウエストホームは、高校生男児の構成となっており、毎年のように卒園する児童を見送っていますが、今年度卒園する児童2名は入所以来私が担当してきたこともあり、例年にも増して感慨深いものがあります。

彼らが卒園を控えた今日に至るまで、時には意見がぶつかることもあり、支援の在り方に悩むことも多々ありましたが、真剣に向き合い寄り添うこと、互いに意見をすり合わせることで、チームアプローチの一貫したケアを大切に支援にあたってきました。自立に向けて十分な支援ができたのかは自分自身でも疑問に残ることもありますが、彼らが立派に社会に旅立つ姿を期待し、後悔の残らないよう残りの3か月を一緒に過ごしていけたらと思います。

また、社会に旅立つ彼らの姿が、在園児にとってもいいモデルとなってくれればと信じて、今後も児童の自立に向けて一生懸命支援にあたっていきたいです。



## 初めての性勉強会

保育士 後藤 真平

今年度から小学校1年生となった担当児童と共にキャサリンホームへ異動となり、新たな環境での幕開けとなりました。4年前からキャサリンホームでは、月に1回の性勉強会を実施しています。絵本の読み聞かせを基に男の子の身体の仕組みやプライベートゾーン、生命について勉強をしています。

性に関して取り扱うので緊張感のある勉強会です。穏やかな雰囲気づくりをする等の工夫が必要でした。

私は、昨年初めて性勉強会で絵本の読み聞かせをしました。初めて読み手となった性勉強会は、思っているようには上手くいかず、課題が多く残りました。

担当である年少の児童は、聞き慣れない言葉や難しい言葉に疑問を抱きながらも、性勉強会に参加をしています。現在は、活発に質問しながら理解しようとしており、今後は読み手・聞き手それぞれの立場で日々学び共に成長していきたいと考えています。



## ノマチホーム

保育士 藤本 一明

希望にあふれる新年を迎えました。地域小規模ノマチホームで、私が担当をして

## 皆で頑張ったクリスマス祝会

土谷 聡一

9月から話し合いを始め、10月より本格的に各グループに分かれ準備してきました。最初は踊りや劇を練習しながらもうまくいかないことなど多く、子どもたちも職員も苦戦していました。皆一生懸命に練習し、より良い物にしようとする気持ちが本番当日、素晴らしい発表が出来た成功の元ではなかったかと思えます。乳児院の子どもたちの可愛いダンス、幼児グループのダンス、新しくトーンチャイムを使った聖劇、中高生のダンスや演奏など各グループ趣向を凝らしていました。本当に全てが素晴らしかったと思います。頑張ってくれた子ども、職員には感謝でいっぱいです。

また、大分フェロ軍団のみなさんやマジシャンのZENさんなど出し物もたくさんあり大人や子ども皆楽しむことができました。

今年度の祝会には、市長も来園され予定されていた時間を大幅に伸ばし、子どもたちの応援をしてくださりました。頑張っている子どもたちの姿にとっても感動したとお褒めの言葉も頂きました。

来年度もより良い祝会になるよう、子ども職員一丸となり頑張っていきたいと思えます。

おります。職員もサポートできる体制を作り、寄り添っていきます。

## 旅立つ児童より

### 栄光園での思い出

J・I

私が栄光園に来たのは、中学生二年生の時です。最初は園での生活に不安もありましたが、ウエストホームの子どもや職員が優しく接してくれたので、すぐに心配や不安もなくなりました。学校にも夏休みの途中で行くことになりましたが、すぐにクラスに馴染むことができました。

栄光園での生活では楽しいことばかりではなく、嫌なことや、大変なこともありましたが、それも今となってはいい思い出です。

社会に出てからは大変なこともあると思いますが、栄光園で学んだことを活かして、一人暮らしの生活や職場でも、一生懸命

命頑張っていきたいと思ひます。

### 私の将来

N・H

私は今年の三月に栄光園を卒園します。栄光園では約七年間と長い間お世話になり、沢山の事を学ばせていただきました。四月からは社会人として生きていきます。楽しい事や苦しい事が私を待っていると思ひます。ですが栄光園での日々を思い出し、前向きに人生を歩んで行けたらなと考えています。私は人生の中で何が一番大切なのかと聞かれたら、それは人間関係なのではないかと思ひます。私を思ってくれる人、私と共に仕事をする人や私の家族、私の大切な友人や栄光園の皆様といった様々な人々によって私は今ここにいます。最後になりますが、本当に栄光園には感謝の気持ちでいっぱいです。心から、ありがとうございます。

### 私のしたい生き方

A・E

どんな生き方をしたいか。そう聞かれたら私は平穩で平凡に生きたいと答える。平凡と言っても、人によって定義が違ふと思う。私の思う平凡とは、他人と喧嘩や、争いをする事無く、しっかりと働き、経済面でも安定している事であり、私はこれらに最大限近づけるようにしたい。将来に向けての抱負と捉えても問題は無いだろう。

栄光園の子どもたちは、基本的に良い人たちで、それぞれに思いやりがあるのを感じる。対して私はどうだろうか。場の空気を壊したり、少しのきつかけで不機嫌になる。思いやり云々ではなく、抑々が駄目なのだ。しかし、私自身もこの栄光園に来て落ち着いてきたと思ひている。それを考えると、私は今現在も私の思う平穩で平

凡な生活に一歩ずつ近付いていると思う。そう実感出来ているからこそ、私は数年後、自身がどんな人間になっているのかを想像し、今を楽しみながら充実した生活を送っていきたいと思ひている。

### 私はこんな生き方をしたい

H・I

私は強い人になりたいです。私は自分の意見がなかなか言えず周りに合わせる事が多いです。それで後で「何で言わなかったんだらう」と後悔する事がよくあります。自分の意見が言えず苦しくなったりもするので今から少しづつ自分が思っている事を言うようになりたいです。それから人を助けられる人になりたいです。理由は、今まで自分自身がたくさん色んな人に助けてもらったり支援をしてもらってきたので、今度は私が誰かを助けて色んな人の力になればいいなと思ひています。

そのためにしないといけない課題は、今ある幸せに気づく事と周りの人に感謝して行動する事や一つ一つの事を一生懸命する事です。私は今こうやって幸せに生活できているのは周りの人がいて、食べる物や着る服など作ってくれる人がいるおかげで幸せに生活を送れていると思ひます。だからこれから先も当たり前と思わずに生きていきたいです。残り少ない学校と園での生活で私は友達や先生、施設の職員さんとたくさん話をしたり、たくさん関わって卒業や卒園ができるよう後悔しないように生活をしていきたいと思ひています。



### 聖書の言葉

## 「心の倉に良い言葉を」

チャプレン(別府不老町教会牧師)

齋藤 真行

(マタイ・12・35)

私たちが語る言葉は、「自分で思いついたもの」だと、私たちは常識的に考えています。「私の意見、私の主張、私の思想」などは、「私自身の心が生み出したもの」であるため、「私自身のオリジナルの創作物の一つ」という印象があるのではないのでしょうか。

ところが、実際には私たちが語っている言葉や思想は、そのほとんどが「借り物」に過ぎません。私たちの近しい人々や先人たちの書物やテレビなどのメディアで聴いた情報を心が取捨選択して、「自分なりの意見」を作っています。ところが、そのもとをたどると、「自分のオリジナル」と言えるものは、ほとんどないというのが本当のところなのです。

どんなに独創的な思想家や、天才的な科学者と言えども、「巨人の肩に乗る小人」である、という比喩が言われます。つまり、個人的にどれほど優れているとしても、先人たちの業績という巨人の肩に載せてもらっているから、より遠くが見えるに過ぎないのであって、個人そのものとしてはそんなに大それたものではない、ということなのです。

どんな人も、周囲の大人や先生、先人たちから言葉や思想を受け継いで、それを基礎にして少しばかりの

自分の持ち味を加えて、次の世代に手渡すことが、個人にできる最善のことであって、最初からすべての考えを組み立てることが出来る人などどこにもいません。

つまり、私たちが日々聴いている言葉や情報が私たちの心に入ってきて、それが私たちの口から出ていくということなのです。私たちの言葉が人を活かしているなら、それは私たちの聴いている言葉がそういう言葉だった、ということに他なりません。

前掲の聖書では「善い人は、良いものを入れた倉から良いものを取り出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを取り出してくる」とあります。つまり、私たちの心は「倉」に過ぎず、それに「善いもの」を入れば、よい言葉を語り、そのゆえにより行動や生き方が可能になるのです。

私たちが子どもたちに残すことができる最善のものは、「善い言葉」であり、それに基づく「善い生き方のモデル」です。私たちが善い言葉を伝え、子どもたちが心の倉にそれをたくさん蓄えて、良い生き方のモデルを思い描くことができれば、それこそが子どもたちの将来を形作る原動力になってくれるのです。

## 乳 児 院

### 乳幼児摂食指導研修を 受講して

りすグループリーダー  
保育士 山口 三穂

乳幼児摂食指導研修は、乳児院で働く人を対象とした乳幼児の摂食に関する様々な相談に対し、適切な指導・助言ができる人材を養成するための研修です。障がいのある児に対する食事介助が適切に行えるようになるには食べる機能の発達に関する理解が欠かせません。

子どもたちは生まれた瞬間から心とからだの発達をします。生まれてから抱っこされ、肌の暖かさを感じ、安心感を得る体験はとても大切です。抱っこをして授乳することはとても重要なことです。

次に大切なことは離乳食を始める時期

### 発達の芽を大切にできる食

NPO法人摂食コミュニケーション・ネットワーク  
摂食カウンセラー 中島 知夏子

食べ物を粗末にする、極端な偏食、食事のマナーができていない、そんな若者が増えています。食とは本来喜びであり、命そのものです。一生の基礎を形成する乳幼児期に、どうすればその気持ちを育てていけるのか、子どもの内面の理解から育児を考えてみましょう。

親はなくても子は育つ、という言葉があるように、人間には生まれながらにして育つ、発達する力があります。その一つに「自分の世界を広げたい」という力があり、子どもが成長する過程には、その力がグングン伸びる時期があります。

つまり、子どもは月齢相応に育つように見えますが、そうではなく、その前に発達の芽、すなわち育ちたいという意欲が出る時期があり、その意欲が発達へとつながっているのです。この時期に大人が新しい世界にうまく導くと、子どもは楽しくスムーズに発達の段階に入っていくことができます。

たとえば、離乳食を開始する6～7ヶ月頃の赤ちゃん。この月齢はちょうど乳児前半期から乳幼児後半期へと移行する発達の節目となる時期です。寝ているだけだった赤ちゃんが寝返りなど意志を持って体を動かしたり、気になるものを手にとって口に入れ、認識しようしたりするなど、心と体が大きく発達します。月齢が来て成長したように見えるこれらのことも、実は4ヶ月過ぎ頃から赤ちゃんの心の中では、すでに発達の芽生えがあるのです。たとえば、家庭では大人が食事をしているのをじっと見つめたり、よだれをたらしたりすることがあります。思うように行動に移すことができなくても「あれはなに？ 口に入れてみたいなあ」という新しい世界を知りたい気持ちが湧いてくるのです。このように愛着関係の基礎を作る上でも赤ちゃんも気持ちをくんでもらえれば嬉しいし、意欲や自信が湧いてきます。この気持ちが、子ども一人ひとりが持っている「内なる力」を大きく外に発する原動力にもなるのです。それは赤ちゃんに限らず全ての年齢の子どもにいえま。

乳児院のスタッフの母親的役割としての関わりが大きく子どもの発達に影響するのです。

です。物を食べるという行動は生来、自然にそなわっている能力ではなく、母乳やミルクを飲み、離乳食を食べるといった体験学習によって身につけてくるのです。離乳食を始めるためにはしっかりと体幹が座っていることが大切であり、離乳食開始が著しく遅れたり、離乳食の進め方が悪く不適切な場合、咀嚼機能が身につかなくなってしまう。1歳半から2歳までに咀嚼機能が得られないとその後の獲得は難しくなるそうです。そうならないように、離乳食の開始時期をしっかりと見極め、始めていかなければなりません。

それに伴う食事介助は最も重要です。子どもと顔と顔で向き合い、声を掛けながら介助していくことが大切です。子どもの口は小さいため、スプーンに少しのせ、口に運んでいきます。そのときにスプーンをすぐに引くのではなく、口をしつかりと閉じたことを確認して、ゆっくりと引き、「おいしいね。もぐもぐだよ。」と優しく声を掛けながら介助していくことを心

がけています。

研修の中でパン粥を食べる機会がありました。ペーストから形態をあげていき、やわらかくて形のある物を食べました。少しドロドロしたペーストからもちりとしたペーストに形態をあげて食べた時に、自分の舌の動きが変わっていくことを感じました。個々に合わせた形態がとても重要なのです。

食事はただ、お腹を満たすためではなく、楽しく食べる食事やその時の思い出などで心も満たされます。ひとりですべて食事よりも皆で食べる方がより一層美味しく感じるの、会話が弾み、心が満たされるためでしょう。

乳児院の子どもたちにも、食事が楽しかったという思い出が残るように、心を満たしていく食事をしていきたいです。

この研修を通して、心身の発達には、食事がとても重要だということを改めて感じました。

## 青 山 保 育 所

### 楽しかったバス遠足

保育士 大海 さくら

きりんぐみ(3歳児)のお友だちは、バス遠足でうみたまごに行きました。バスに乗ることも、うみたまごに行くこともとても楽しみにしていた子どもたちです。待ちに待った当日は天気にも恵まれて、栄光園グラウンドに到着したバスに、満面の笑みで乗り込みました。うみたまごでは、大きな水槽に釘付けで、いろいろな海の生き物に興味津々の子どもたちでした。ふれあいタイムでは、大きなアシカやセイウチを怖がる子どももいて、恐る恐る触っていました。触った手をおっぴてみて「魚のにおいがする」、感触を「ザラザラする」と子どもたちなりの感想が聞かれました。実際に見て、触れて、においをかいだ今回の体験は子どもたちにとって忘れられない体験だったのではないかと思います。

お昼は広場で、お弁当を美味しく食べて、張り、とても楽しい遠足となりました。



### 食欲の秋

保育士 薬師寺 良



秋のさんま祭りがありました。1歳児のお友だちは、けんちん汁に入れるしめじをさきました。しめじの感触や匂いを確かめながら、上手に割くことができました。2歳児は、おにぎりを作りました。ご飯をラップにくるんで「ぎゅっぎゅ」と言いながら楽しそうに丸めました。園庭では、園長先生がサンマを焼いてくれました。いい匂いに誘われて、子どもたちと一緒に見に行くと、美味しそうにいい色に焼けたサンマが！「いいにおい！」「おいしそう」と早く食べたい様子の子どもたちでした。

青空の下で「いただきます!!」勢いよくサンマにかじりついていました。秋の味覚を存分に味わうことが出来ました。



### デイキャンプ

保育士 渡邊 歩

11月6日、秋晴れのキャンプ日和だったこの日、ぞう組5歳児のお友だちと保護者の方と一緒に湯布院の「山荘四季」に行き

ました。現地まではお友だちや親子での会話を楽しみながら40分程かけてバスで行きました。現地は赤や黄色に色付き始めた木々や山々に囲まれ、谷まで下りると小川が流れれており、自然豊かな場所でした。子どもたちはお家の人と散策を楽しんだり、アスレチックなどの遊具で遊んだり、自然の中でたくさん遊びました。お昼ご飯にはカレーライス、おやつには焼きマシユマロをみんなで作り、青空の下で口いっぱい頬張りながら食事を楽しみました。とても素敵なキャンプ体験ができました。保育所に戻ってくるなり「〇〇したよ!」「〇〇が楽しかった」と4歳児のお友だちや保育士にたくさんのお話しをしてくれました。5歳児の子どもたちにとってもは保育所での楽しい思い出がまた一つ増えたことと思います。



### 頑張ったよ発表会

主任保育士 二宮 孝介

12月に発表会がありました。当日は、いつもとは違う雰囲気への戸惑いや家族の方の姿を見て、泣き出してしまふのではという心配をしていた私たち保育士でしたが、見事にかき消してくれるような、素晴らしい子どもたちの姿を見ることが出来ました!!

ぱんだぐみ(3歳未満児)の控室では、おやつを食べたり、みんなで写真を撮ったりしながら、「はやく踊りたいよー」と自分

の出番を待ちわびる子どもたちの姿が見られました。いざ舞台上立つと、お家の人を探す姿や、手を振る姿はもちろんありましたが、今までの練習の成果が一番発揮出来ていました。その姿に、胸が熱くなる思いをさせてもらいました。保育園で発表会の練習をしていましたが、保護者の方に聞くと、お家でもダンスをしたり、歌を歌ったりする姿が見られたようです。保育園でも、ご家庭でも頑張っている姿を認めてもらえた子どもたちはとても自信がついたのではないかと思います。今後も保護者の方と協力して子どもたちの成長のサポートをしていきたいと思います。



### クリスマス会がありました

保育士 平田 留美子

12月24日にクリスマス会がありました。クリスマスの話を聞いたり、クリスマス

ツリーを完成させるビンゴゲームをしたり、クリスマスソングをみんなで歌ったりして催し物を楽しみました。サンタさんの登場では、驚いて固まってしまふ子どももいましたが、サンタさんから、おもちゃのプレゼントをもらい大喜びの子どもたちでした。

午後のおやつの中には、またまたサンタさんの登場! お菓子の入ったブーツを一人ずつ手渡され、びっくりしながら嬉しそうなお友だちもいました。クリスマスならではのワクワクする楽しい雰囲気がたくさん味わうことができました。



昨年も行事や、日頃の保育を通して子どもたちはたくさんさんの経験ができました。今年も子どもたちが楽しい、おもしろいと思ってもらえるような保育をしていきたいと思います。どうぞよろしくおねがいします。



# 野口保育所

明けましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願ひ致します。

## 親子バス遠足

当日は雨天のため、農業文化公園で苗植えをした芋ほりに行く予定でしたが、目的地を変え、うみたまごへ行ってきました。雨にもかかわらず大きいバスに大興奮の子どもたちでした。うみたまごではセイウチやイルカのショーを見たり室内遊具で遊んだりと楽しく過ごしました。なかには水槽を覗いて「これ食べる？」とお家の人に問いかける子もいましたよ。楽しみにしていたお弁当は保育園に戻ってきからみんなでワイワイ美味しくいただきました。来年は晴れてくれるといいなと思います。



## 保育参観

今年度2回目の保育参観を行いました。今回も水曜日と土曜日の2日間にわたり参観日を設けました。水曜日は、一緒に散歩に行ったり一緒に制作をしたり

で、6月の保育参観のときよりも成長した子どもたちの様子を見ることができ楽しんで頂けたようです。

土曜日は、保育参観の予定でしたが、10月に行けなかった芋ほりに急遽変更しました。急な変更にも関わらず皆さんの保護者の方々に参加していただき、とてもありがたかったです。手や顔を真っ黒にしながらお家の人と一緒にお芋を掘っている子どもたちの顔にはたくさん笑顔があふれていました。残念ながら今回参加できなかったお友だちや先生の方もみんな力を合わせてたくさんお芋をたくさん収穫することができました。お土産のお芋をくれた重たい袋を嬉しそうに覗き込む子どもたちでした。その後は公園で遊んだりお弁当を食べたりと天気にも恵まれ楽しい1日になりました。



## 発表会

2019年の締めくくりともいえる発表会。保育園でのたくさんさんの経験や運動会などの大きな行事を経験した子どもたちは心も身体も成長したように思います。小さいながらも友だちと一緒に最後まで頑張ろうとする姿には毎回驚かされます。当日は、大勢のお客さんの前で緊張しながら

らも最後まで踊ったり歌ったりする子どもたちの姿がたくさん見られてとても嬉しかったです。



## クリスマス会

子どもたちが、毎年楽しみにしているクリスマス会。日に日にクリスマス装飾がされていく保育室や廊下・窓を見てはあ



したクリスマス会？と何度も聞いてくる子どもたち。会では子どもたち全員が自分で作った帽子をかぶり、歌を歌ったりお買い物ごっこをしたりして楽しみました。お買い物ごっこでは4・5歳児がお店屋さんになってくれて大盛況でした。お待ちかねのサンタさんの登場にはびびくりして泣いてしまう子もいましたが、プレゼントをもらった途端にニコニコ笑顔全開でした。その後可愛いクリスマススランチャやおやつのパフェを思う存分堪能した子どもたちでした。



今年度も残り少なくなり1年を締めくくる行事がまだまだ控えています。子ども一人ひとりとしっかり触れ合い、子どもたちが毎日楽しく過ごせるように職員全員で頑張っていきたいと思ひます。本年もよろしくお願ひします。

主任保育士 渡辺 智美

### 地域支援活動 集いの場くるみ

明けましておめでとうございませう。集いの場くるみでは、子どもたちにとって楽しい経験、有意義な体験をさせてあげられるようこれからも力を尽くしてまいりたいと思っております。こんな思いに共感してくださる方々の参加をお待ちしております。子育て、地域づくりに興味のある方々は是非お力をお貸しください。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

#### 10月 Happy Halloween!

最近、クリスマスと同じくらいの盛り上がりを見せているハロウィンですが、ハロウィンがどんな行事なのかご存じの方はあまり多くないのではないかと思います。そこで、みんなで外国の文化について学びました。

アメリカのハロウィンでは、魔除けとして玄関先にジャックオーランタンを飾るのがそうです。そこで、子どもたちにランタン作りを体験してもらいました。

一つ一つ違った形のカボチャで、個性的なランタンを作っていました。みんな家に持ち帰ったランタンを飾って家の魔除けにしてくれたことでしょうか。

また、遊びながら英語に親しんでもらおう「ハロウィン・ビンゴ」のゲームもしました。子どもたちは、初めはきょとんとした様子でしたが、少しずつ「Yes, I do」「so, so」「No, I don't」などと答えることができるようになりました。



海外の文化に親しみ、外国の人とも緊張せずに接することができるようになってほしいものです。

#### 11月秋のレクリエーション大会

気持ちの良い青空の下、秋のレクリエーション大会を行いました。当日は、地域の高齢者の方々においでいただき、子どもたちと一緒にいろいろなゲームを楽しんでもらいました。

前回からボランティアとして参加して下さっている地域の方や学生の方々のおかげでゲームの進行などもスムーズに運び、大人も子どもも笑顔いっぱいのお会となりました。



会が終わった後、ボランティアで参加してくださった方々との反省会も様々な意見が出てとても有意義なものとなりました。子どもたちの課題なども見えてきて、地域の方、特に高齢の方との交流の必要性を強く感じております。

子どもたちが周りの方たちに温かい配慮ができるような大人に成長していつてもらいたいという思いをこれからも子どもたちに伝えていこうと思っております。

#### 12月くるみのクリスマスパーティー

栄光園のホールにて、クリスマスパーティーを行いました。スタッフの心を込めたクリスマスメニューを食べながら、5月からの活動をスライドショーで観たり、ビンゴゲームでクリスマスプレゼントをも

らったりして大喜びの子どもたちでした。三菱電機様のご協力により2回目の科学教室を開催することができました。

今回は、「モーターで動く動物」を作りました。モーターの原理のお話は、磁石のN極S極の話から始まり、少し難しいようでしたが、工作が始まると目をキラキラと輝かせて作業に取り組んでいました。出来上がった動物を実際動かして遊ぶ中で自分の手で作り上げたものが動いていく喜びを感じることができたのではないのでしょうか。モノづくりの楽しさを味わい、興味関心を持ってくれたらうれしいです。

地域支援担当 原田 康子



#### 職員の異動

2019年 11月~12月	
採用	12月 (児童養護施設) 芝崎 弘美 (看護師) (青山保育所) 酒井 和子 (子育て支援員)
退職	12月 (児童養護施設) 立石 由香里 (看護師)

#### 賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口でも、分割でも可。  
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

### 栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のごような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どもの進学等を重点的に支援する目的で始めた「自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)」の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。現在当園でも中高生が児童の6割を占めるようになりました。どうか子どもたちの未来にお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。

【2019年10月1日~2019年12月31日(年末)】

#### 賛助金

阿部董様	速見郡日出町
安部道人様	大分市
安部保様	別府市
飯田法子様	佐伯市
伊勢方信様	別府市
宇戸美和子様	大分市
金谷正明様	大分市
吉田悦子様	豊後大野市
木村洋子様	大分市
吉良頌三様	別府市
貞閑孝也様	大分市
立花旦子様	大分市
友永丈一様	別府市
南光物産(株)様	別府市
日本基督教団北九州復興教会様	北九州市
原順子様	別府市

帆足和生様 別府市  
 牧野建紀様 別府市  
 宮沢淑子様 大分市  
 宮本妙子様 別府市  
 山口産業(株)様 別府市  
 (有)栄光建設様 富田林市  
 (有)後藤商店 別府市

特別寄付

遺贈金 故原田恒男様 大分市

一般寄付

石渡恵美様 別府市  
 石とう循環器麻酔科クリニック様 別府市  
 岩田哲也様 大分市  
 大分銀行労働組合様 大分市  
 荻野克彦様 大阪府箕面市  
 大宮遊技場組合様 さいたま市  
 影山隆之・由利様 大分市  
 (株)SKEN大分支店様 大分市  
 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所様 福岡市  
 亀井浩様 別府市  
 川本順平様 別府市  
 Kへアーのお客様 大分市  
 小手川裕市様 別府市  
 佐藤産婦人科医院様 豊後大野市  
 三栄建設工業(株)様 大分市  
 税理士法人アール様 大分市  
 第一生命労働組合様 大分市  
 高木政嗣様 別府市  
 匿名様 別府市  
 匿名様 大分市  
 豊後高田市更生保護女性会様 豊後高田市  
 日本基督教団門司教会様 北九州市  
 日本競輪選手会大分支部様 別府市  
 波津久養豚場様 白杵市  
 平川順子様 別府市  
 別府不老町教会婦人会様 別府市  
 別府薄部学園短期大学幼児教育学科 別府市  
 松本小児科様 別府市  
 みらい信金同友会様 別府市  
 (有)工房輪葉様 大分市

自立進学資金

由布岳東峰山頂お賽銭 由布市  
 安達祥子様 別府市  
 安東秀典様 大分市  
 岡口文明様 大分市  
 梶原康弘様 大分市  
 神鳥慶子様 杵築市  
 波多野郁子様 別府市  
 南範子様 中津市  
 匿名様 中津市

特別物品寄付

お菓子 明石文昭堂様  
 パン 石窯パン工房モコモコ様  
 肉まん・ジュース 板井由香様  
 ラグビーボール エディオオンゆきでんき様  
 米・服・救命用ベスト エトウ商会江藤貞幸様  
 なし5箱 大分県なし研究会会長梶原智俊様  
 30×4 大分県農業共済組合様  
 プリンター・掃除機 (株)SYSKEN様  
 お菓子・クリスマス雑貨 (株)ジャムズ赤峰康平様  
 シール・DVD (株)プレナスほつと様  
 お菓子・おもちゃ (株)ユーコー南的ヶ浜店様  
 バスマット・タオル 川野武士様  
 本 九州労働金庫別府市支店様  
 食パン6本 銀座に志かわ17号店大明野店様  
 クリスマスプレゼント 釘宮英子様  
 クリスマスケーキ 工藤智美様  
 ボディソープ Kへアー様  
 別府ファンシア食券 公益社団法人別府青年会議所様  
 パン ココラート様  
 りんご 社会福祉法人青葉学園様  
 シャンメリー 全国シャンメリー協同組合様  
 タオル・本・石けん・ゲーム 白沢史子様  
 りんご 杉町圭蔵・千穂子様  
 衣類・バッグ・お菓子 税理士法人アール様  
 衣類 染矢貞志様  
 お菓子・オムツ・おしりふき 竹本明彦様  
 米・みかん 田中喜久男様  
 クッキー ティム・ディック様  
 まんが 匿名様

米・にんにく 匿名様  
 文具・雑貨等 匿名様  
 衣類 匿名様  
 パン 友永パン屋様  
 洗剤・文具 中村里子様  
 果物・お菓子 中山田正春様  
 お菓子 南光物産(株)様  
 野菜・かぼちゃ・卵 二宮洋典(株)九州錦運輸様  
 果物・お菓子 二宮篤様  
 鏡餅 日本鏡餅組合様  
 本 日本出版販売(株)様  
 おもちや・衣類・絵本 フナキカイツウ様  
 米 別府平和園様  
 りんご・ハンドクリーム 三浦・北山・平川様  
 衣類・靴 宮崎京治様  
 みかん 宮崎孝義様  
 野菜 本岡香様  
 おもちや・衣類・絵本 山口幸恵様  
 クリ 山本宜雄様  
 クリスマスケーキ (有)安部製菓様  
 お菓子・お餅 (有)ヴィーナスギャラリ別府様  
 クリスマスケーキ (有)TN保険ひろば様  
 お菓子 (有)東海レジャーキャロル津福店様  
 餅つき・カレー材料

招待・奉仕

陸上自衛隊別府駐屯地様  
 別府中央ライオンズクラブ様  
 渡辺貞夫様  
 さんま  
 小中学習ボランティア 安東秀典様  
 井上せつ子・木本直美・山口香様  
 英会話クラブ SBI子ども希望財団様  
 ピアノレッスン 奥山靖子様  
 スピードラーニング APU学生エギー様  
 児童の散髪 Kへアー様  
 金曜学校 齊藤真行様  
 ” 庄司宣充様  
 ” 吉武二郎様  
 ” 猪股通安様  
 スポーツボランティア ティム・ディック様  
 ハンドマッサージ 三浦・北山・平川様  
 マジックショー 梅木善男様  
 七五三着付け エッチ美容室様

七五三写真 木村写真場様  
 チェロ演奏 白沢史子様  
 餅つき 別府中央ライオンズクラブ様  
 子ども科学実験教室 三菱電機(株)九州支店様  
 餅つき・演奏 陸上自衛隊別府駐屯地様  
 芋掘り・ピザ焼き NPO法人むぎの会様



苦情等相談窓口

\*法人および各施設での苦情等は  
 下記の連絡先へご相談ください。  
 tel.0977-23-2827  
 fax.0977-23-7520  
 mail eikoen@live.jp

編集後記

世界的に森林火災が大きな問題となつています。アマゾン、インドネシア、カリフォルニア、そして今現在も燃え続けているオーストラリアの森林火災です。  
 特にオーストラリアの火災は、昨年9月から2000軒近くの家屋が破壊され、少なくとも25人が死亡し、数億匹の動物が犠牲になったとみられています。昨年は、「最も暑く、乾燥した1年だった」とのこと、そしてその原因として考えられているのが、インド洋の海面温度が変化する「ダイポールモード現象」ではないかといわれています。  
 このように地球規模の異常気象が私たち人間や野生動物に大きな影響を及ぼしています。火災現場から遠く離れた日本でも、森林の保全や地球温暖化の防止、また、そこに住む野生生物の保全に貢献することができする方法を考えていきたいものです。  
 (原田)